

# 北海道にやってくる赤潮プランクトンの動きの解明

有害赤潮生物カレニア・ミキモトイは、対馬暖流によって日本海を北上し、本道沿岸にやってくることが分かりました。

有害赤潮生物カレニア・ミキモトイ  
(細胞の直径30-40 μm)



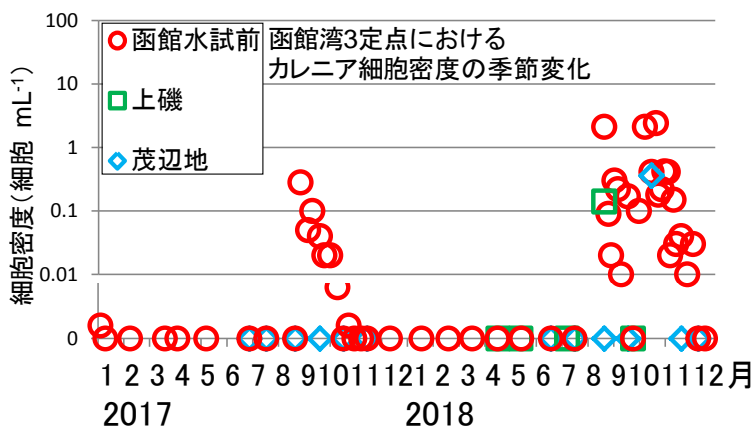
## 背景

うずべんもうそう

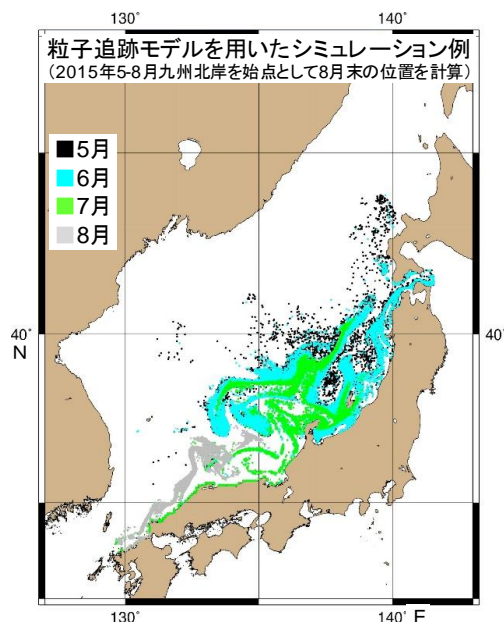
- 2015 年秋に函館湾で渦鞭毛藻の一種カレニア・ミキモトイ（以下カレニア）による有害赤潮が北日本で初めて発生し、サケ、スルメイカおよびエゾアワビが斃死しました。
- 本道周辺におけるカレニアの発生機構を調べ、漁業被害の軽減策を講じる必要があります。

## 成果

- 函館湾では、カレニアは夏～秋に現れることが分かりました
- 日本海～津軽海峡では、カレニアは夏～秋に広く分布することが分かりました
- 西日本のカレニアは2-3カ月で本道に到達すると推定されました



分子生物学的手法(LAMP法)でカレニアが検出された場所と年月日



## 期待される効果

- 西日本におけるカレニアの発生状況等から、本道沿岸におけるおおよその発生時期を予測することができます。
- 予測に基づいて、定置網等の漁具や飼育海水を管理することで、漁業被害を抑えることができます。